

“学びの場” 地域推進事業 「開校！『温泉津いろは楽校』」

大田市立温泉津公民館

1 温泉津公民館の概要

大田市温泉津町は市の最も西に位置し、美しい海と山に囲まれた自然豊かな町である。1,300年の歴史があるといわれる「温泉津温泉」、石見銀山で産出された銀を運ぶ「銀山街道」や積み出し港として栄えた「沖泊」などの歴史的遺産、上質な粘土が生む「温泉津焼き」などの特産品。人口約3,500人（高齢化率43%）の小さな町でありながら、地域が誇る様々な資源を活かし、優れた先人たちの英知や住民一人ひとりの努力により、活発なまちづくりが進められている。

大田市では、平成21年度より公民館の体制が新しくなり、市内7ブロック単位ごとに新しい公民館が設置された。町内4地区（温泉津、湯里、福波、井田）の旧公民館は「まちづくりセンター」へと名前を変え、主に地区のまちづくり事業に力点をおくこととなった。そして、温泉津町全域を包括する新たな「温泉津公民館」は、ひとづくりによって地域課題に取り組んでいく専門的な社会教育活動を展開する体制が整った。各地区が育んできた教育基盤の上に、1館4センターが5者連携しながら温泉津ブロックとしての地域づくりを進めている。

2 事業の概要

（1）はじめに

①実証事業名 “学びの場” 地域推進事業「開校！『温泉津いろは楽校』」

②実証事業のテーマ

【まちのすべてが学びの場 ～開校！「温泉津いろは楽校」※】

※いつでも、どこでも、誰でも参加できる一連の課題別公民館事業の総称

③実証事業のねらい

- ア) 住民それぞれの生涯学習活動の振興を図る人材ネットワーク化を図る
 - イ) まちが抱える地域生活課題を解決する人材を育成し、活用する
 - ウ) 地区間連携・学社連携における地域全体の教育力を高める
 - エ) 長期的視野で、個人および地域の自立を協働のもとに促進する
 - オ) 広く有益な情報を集め、精力的に発信する基盤を整備する
- ⇒ 各地区まちづくりセンター等との連携を軸に、まち全体を学びの場とし、町内4地区の地域力を結んで生まれる新たな学びを推進する

（2）具体的な取組（内容、活動状況 等）

新公民館設置初年度となった平成21年度の事業展開の中で、共に“集う”“学ぶ”姿勢の構えが住民の中に少しずつ見え始めてきた。1年間の成果と課題を活かし、温泉津ブロック内に“根を張った”学習環境の整備に努め、人材発掘・育成を進め、地域と学校と家庭が連携した教育基盤作りを行う。まち全体を社会教育の場として捉え、住民が主役の自主活動を軸とした教育活動「温泉津いろは楽校」事業を中心に推進した。

◆中心3事業◆

① 生涯学習活動支援事業「温泉津いろは楽校」

- ・温泉津町全域から興味や趣味を同じくする仲間が集う機会を創出する
- ・文化・教養・体育に関する団体の活動自主運営と学習組織化を目指す
⇒学習団体ネットワーク化と活動助言、連携支援、新規設立補助 等

② 社会教育／課題別講座「温泉津いろは楽校 公開講座」

- ・地域が抱える課題を温泉津町4地区協働で解決する学習環境を作る
- ・今後の地域を担う人材の発掘と育成を行う。
 - ア) 歴史・文化「不言城と吉川氏に関わる歴史浪漫」
 - イ) 青年教育・家庭教育
「働く男の料理教室」「温泉津レディのヒヨコ講座」
 - ウ) 国際理解教育「開発教育～世界を感じる参加型学習」
 - エ) 人権教育「車いすバスケットボール 体験会」

③ 育成人材活用事業（平成22年度 学習成果の発表）

「第2回 温泉津公民館まつり『ホット・スプリングフェスティバル2011』」

- ・公民館、まちづくりセンター、各学校等における1年間の学習成果の発表を通して、地区相互連携のもと、温泉津の未来に向けた住民主役の協働事業



「まちづくりや学校支援にも波及しうる学習活動・人材育成」

① 生涯学習活動支援事業「温泉津いろは楽校」の実施

- 各地区で活動中の既存文化・スポーツ団体へ呼びかけ、団体登録説明会を実施。20 余団体が登録し、第1弾となるネットワークを構築。活動紹介も兼ねた参加者募集広報を町内全戸へ配布。
- 新規団体設立を目指した体験会も実施。新規団体も含めて改訂した第2弾広報を今春に予定。



(写真1) 募集広報チラシ

② 社会教育／課題別講座「温泉津いろは楽校 公開講座」の実施

ア) 歴史・文化シリーズ「不言城と吉川氏に関わる歴史浪漫」

銀山争奪戦の時代・吉川氏一族の歴史を紐解く中で、郷土の偉人達が残した功績や地域に残る遺産の歴史的価値を見つめ直し、郷土への誇りや愛する気持ちを育むことを目的に年間8回実施。専門家による講義や古文書解読技術を学ぶほか、歴史的関連諸地域（鳥取市、広島県北広島町）へのフィールドワークや各所表敬訪問等も積極的に行ったことで新たな市町村間交流と学びの輪が県内外へ広がった。（受講者数：のべ200名程度）



(写真2) 北広島町
フィールドワーク

イ) 青年教育・家庭教育シリーズ

「働く男の料理教室」「温泉津レディのヒヨコ講座」

日ごろ地域活動に参加しにくい働く世代を対象とした事業を各講座3回ずつ実施。20代～40代の男性たちが集い、家庭でふるまえる手軽な料理に挑戦した「働く男の料理教室」（参加者数：のべ16名）。また、20代～

50代の女性たちが、地域の歴史や郷土料理、自然を学び、体験活動を行った「温泉津レディのヒヨコ講座」(参加者数：のべ38名)。青年層が集う場を提供できたことで、情報交換を通じ、今後積極的に地域活動に参画する機運を高める一翼を担えたと感じる。



(写真3) ヒヨコ講座

ウ) 国際理解教育「開発教育～世界を感じる参加型学習」

町内の小中学校に通う児童・生徒とその保護者を対象に実施。異文化理解を深め、少年期から人権・共生意識を育む目的で、参加型学習を実施。今回は、子ども達にとって身近なチョコレートを題材に、世界の児童労働の実態やフェアトレードの意義など、世界的視野で物事を捉えながらも自分が出来る小さな一歩とは何か、参加した子ども達同士で学び合った。

エ) 人権教育「パラリンピックキャラバン 車いすバスケットボール体験会」

大田市体協温泉津支部と温泉津中学校との三者連携により、温泉津町人権教育事業として実施(参加者数：のべ82名)。実際に競技車に乗って体験した小・中学生のほとんどが初めての経験で、日本代表選手らの指導により操作の難しさを体感。障がいをもつ人への理解と思いやりの心も育むことができた。



(写真4)

車いすバスケット体験会

③ 育成人材活用事業(平成22年度 学習成果の発表)

「第2回 温泉津公民館まつり『ホット・スプリングフェスティバル2011』」

- 温泉津公民館と各地区まちづくりセンター、各学校等における1年間の学習成果の発表の場の創出を通して、地区相互連携のもと温泉津町の未来に向けた住民主役の協働事業として実施。住民らによる実行委員会を夏に立ち上げ、【ステージ発表】【展示体験】【出店】【テーマ企画】の4部門に分かれて準備を進めてきた。
- 今年度は『温泉津いろは楽校公開講座①「不言城と吉川氏に関わる歴史浪漫」』を中心企画に、関連諸地域(鳥取市、岩国市)からゲストを招き、地元住民を交えたシンポジウムや地元小学生の創作音楽朗読劇を上演し、好評を博した。

(参加・来場者数：のべ500名程度)



(写真5) 吉川フォーラム



(写真6) 創作音楽朗読劇

【参考】そのほかの温泉津公民館事業

- 地区間交流
 - ア) 小学生交流事業「夏休み 温泉津子どもアートウィーク」
 - イ) 女性学級交流事業「米粉料理教室」
 - ウ) 高齢者学級交流事業「高齢者表現活動ワーク」
 - 家庭教育・学社連携
 - ア) 図書ボランティア学習会
 - イ) 出張 親学講座
 - スポーツ・文化支援
 - ア) 室内ダイヤゾーン・ボール体験会
 - イ) 出前映画塾in温泉津
 - 他団体協働事業
 - ア) 温泉津町書き初め展(書道教育連盟協働)
 - イ) 海神楽(海神楽実行委員会協働)
- など

3 事業の成果と課題

(1) 生涯学習活動支援事業「温泉津いろは楽校」について

大田市合併以前、温泉津町文化協会（当時）が担っていた各種団体ネットワーク化の本格的再始動に向けて歩み出した一年だった。既存団体の活動実態把握やそれを受けた情報発信、更には需要に基づく新たな教室開設支援など、住民目線で取り組んできた。ただ、少子高齢化の影響もあり、活動自体が衰退しつつあるのが現状である。既存の活動の支援・発展に努めると共に、若い世代が求める学びに積極的に応え、地域活動への参加を促すことが今後の大きな課題である。

(2) 社会教育／課題別講座「温泉津いろは楽校 公開講座」について

地域や社会全体の課題を洗い出し、課題解決に向けた方策提言と人材を発掘・育成するという目的を推進することができた。同じ目的や興味のもとに集い、学ぶ場を創出したことで、今まで公民館活動への参加がない人達を巻き込むことができた。また、学びを通じて、縦（世代間）と横（地区・市町村間）との交流が新たに生まれ、温泉津町全域に活力が見え始めている。今後は、公民館が企画・運営するだけでなく、講座を通じて住民の学ぶ意欲を高め、自立して長期的に活動できる団体の発足などへ結び付けていくことが課題である。

(3) 育成人材活用事業「第2回温泉津公民館まつり」について

地区の垣根を越えて、「学び」をキーワードに温泉津町民が集う貴重な機会として定着しつつある。今年度は「不言城と吉川氏に関わる歴史浪漫」を中心企画に据えて体系的に企画・運営したことで、まつり全体のまとまりが生まれ、実行委員会を中心に運営に携わるすべての人々が意欲的に協力し合うことができた。ただ、今後回数を重ねることでまつり自体がマンネリ化してしまわぬよう、「1年間の学びの集大成」というスタンスを維持しながらも、新たな試みも積極的に取り入れ、公民館まつりの長い歴史を重ねていきたい。

4 今後の方向性

県下で唯一、大田市独自の「ブロック公民館」「地区まちづくりセンター」という2本柱体制の下で、公民館が果たすべき役割の大きさを日々実感している。個人の興味や要望に応える「生涯学習」の支援体制を維持しつつ、これからの時代や社会の要請に応える新たな「社会教育」を量的にも質的にも拡大し、推進していかなければならない。そのため、初年度同様、地域の実情を見定め、幅広い地域課題の抽出を行い、それら課題解決に向けた学びの場『温泉津いろは楽校』事業を今後も積極的に推進していきたい。また、少子高齢化がますます進む中で、学校・家庭・地域の連携・協働も温泉津町の「地域力」醸成に不可欠であると考えられる。引き続き、行政や社会教育関係団体との連携・協働を働きかけ、長期的な活動展開も視野に入れた幅広い社会教育事業を展開していきたい。

あくまでも主役は地域住民である。幅広い世代の人々が参加し活躍できる場を提供する「ひとづくり」と、そこから波及する「まちづくり」の一翼を担う存在を目指し、今後も公民館活動を活発化していきたい。